

浜松観光ボランティアガイドの会

「浜松観光ボランティアガイド養成講座」(前編)

令和元年度の浜松観光ボランティアガイド養成講座が始まりました。

本年度は、男性5名、女性4名、計9名の受講者です。講座は座学をホテルコンコルド浜松、現地研修を浜松城で実施します。講師は研修部の皆さん、内容は以下の通りです。なお、1から3回を前編、4から6回を後編として2月、3月の会報に掲載します。

回	日時	テーマ
1回	1月13日(月)10時~12時	楽しきかな案内人、新人体験談2名
2回	1月20日(月)10時~12時	浜松城内展示物と石垣
3回	1月27日(月)10時~12時	浜松城にて現地研修
4回	2月3日(月)10時~12時	家康の散歩道、犀ヶ崖資料館
5回	2月10日(月)10時~12時	浜松時代の家康
6回	2月17日(月)10時~12時	浜松とは

1回：鈴木猛二事務局長の開講挨拶の後、「楽しきかな案内人」を大村真佐夫会長から、会の歩み・目的活動内容等の説明、そして“一期一会の出会いを大切に”を心得にしたガイドの基本姿勢について説明がありました。続いて「新人体験談」を21期生の松沼素子さん(南ブロック)、飯尾隆さん(西ブロック)が、出逢いの素晴らしさを熱く愉快地語られました。休憩後、「浜松の地形の変遷」について会長の講座がありました。

2回：益田啓子さんが「浜松城内展示物」について、1階は絵図、具足、十六武将図、家紋の額等々、2階は城下町ジオラマ、刀剣槍等の武具、城内唯一の本物具足、歴代城主一覧、城郭分布図、3階展望回廊での眺望と天守台の地下井戸まで18項目の説明をしました。休憩後、江戸時代の城の姿を伝える重要な遺跡「浜松城の石垣」について鈴木利雄さんから説明がありました。浜松城の石垣には各所に工夫の跡が見られ、詳しい資料と共に次回の現地研修で確認できるとのことでした。



浜松城にて現地研修



ホテルコンコルド浜松にて座学研修



新人体験談・松沼さん、飯尾さん

3回：いよいよ現地研修です。杉本忠久さんと古山貴朗さんから浜松城内の展示物、天守曲輪周りの石垣、埋門から美術館前を通り作座曲輪周辺の説明の後、東照宮、下垂口、瓦門跡から二の丸跡、本丸南広場での最終説明で定刻解散になりました。寒中ながら受講者全員が参加し、随所で熱心に質疑応答が交わされました。

《受講後の感想》

- ・観光ボランティアガイドについてよく分かった。
- ・知人の勧めで受講したが、地元を再認識した。
- ・退職後の楽しみにしたいと思う。

広報部 藤田礼子(中ブロック)

事業部主催 広沢小学校「ふるさと講座」

1月15日(水)9時20分から11時まで広沢小学校の体育館にて「ふるさと講座」を事業部主催で行いました。広沢小学校での「ふるさと講座」の対象は数年前までは5、6年生でしたが、今年は3年生5クラスの148名を対象で行いました。

最初に大村会長の挨拶があり、その後、広沢小学校周辺にある名所旧跡について事業部の部員8名が説明をしました。

前半は①高柳健次郎の碑(谷野正康さん)、②鷹野つぎの碑(斎藤博行さん)、③普濟寺(牧田龍司さん)、④宗源院(戸塚正康さん)、⑤西来院(橋本彰さん)をそれぞれ説明しました。3年生の児童にとっては難しい話が続きましたので、休憩前に大村会長が児童の住居がある「広沢」「蜷塚」などの町名のいわれをやさしく話し、関心を高めるようにしていました。

15分の休憩後に、後半の⑥浜松城天守閣周辺(飯尾隆さん)、⑦浜松城天守閣内(鈴井あや子さん)、⑧犀ヶ崖外側(森部勝義さん)を説明しました。

資料はプロジェクターで投影して、漢字にはルビを付けるなどの工夫をして説明しました。飯尾隆さんは浜松城の屏風折れ石垣の説明にボール紙で折れ形状を作って児童向けに分かりやすく解説をしていました。紅一点の鈴井あやさんは笑顔で児童に問いかけるようにやさしく話していました。

冬の体育館に暖房はなくて、児童は座布団を敷いて寒さ対策をしていました。浜松城などで観光ガイドをする大人のお客さんと違い、児童たちは全員がメモを取っていました。授業の一環とはいえ、その真剣な姿には感心しました。

犀ヶ崖資料館のDVD「負け戦から始まった天下統一」を上映して終了となりました。

広沢小学校の周辺には「家康の散歩道」の名所旧跡が沢山あり、児童の中には宗源院隣の蜷塚幼稚園、普濟寺幼稚園の卒園生もいます。この「ふるさと講座」が地元の歴史に関心を持つきっかけとなることでしょう。

2月早々には今回の「ふるさと講座」の御礼として児童達が制作した感想文集が当会に届きました。

広報部 春日康治(西ブロック)



プロジェクターで投影して説明



紅一点の説明者・鈴井さん

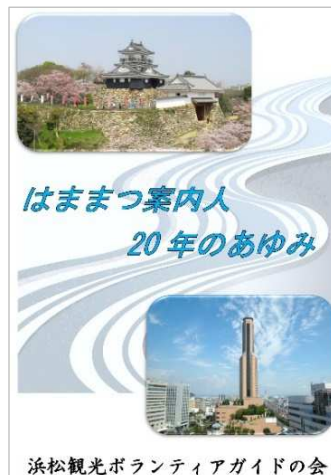


熱心にメモをとる児童達

20周年記念誌 「はままつ案内人20年のあゆみ」が完成

昨年4月に当会20周年事業担当の竹山和子さんを中心に発足した「20周年記念事業プロジェクトチーム」が編集作業をおこなってきた20周年記念誌制作が完了し、1月に「はままつ案内人20年のあゆみ」を発行しました。1月に会員及び関係機関に配布しました。全52頁オールカラーの内容は過去20年間の活動記録・役員名簿、現在の活動拠点及び会員の紹介等です。編集にあたっては1期生の皆様、資料提供の会員の皆様及びチームメンバーの多大な協力があり完成させることができました。

当会の20年間の歴史が1冊に凝縮されていますので、大切に保管して活用してください。



浜松観光ボランティアガイドの会
20周年記念誌の表紙

浜松アマチュア無線クラブ ～ふるさと講座～

1月19日(日) 12時50分から、浜松アマチュア無線クラブの会員37名の参加を得て、北部協働センターにてふるさと講座を開催しました。

本講座は、昨年11月末に、浜松アマチュア無線クラブ会長の鈴木康一様より「以前、歴史講座を聴いたがすごく印象的だった。学問的なことより裏話に興味があり、講座受講対象者は無線クラブ会員40人で、来年の1月頃をお願いしたい」との講座開催依頼を受け、開催の運びとなりました。

当会からは、会長の大村真佐夫さん、研修部の杉本忠久さんが出席して、大村会長から講座の演題を「徳川家康公あれこれ」として、約50分に渡り説明をしました。

内容は、下記の8項目のテーマに沿って話が進められました。

①徳川家康とは(家康の一生、家康の人となり)、②人質時代は「宝の時代」(織田家、今川家から得たもの)、③家康の人生における最大の痛恨事(築山御前・長男の殺害)、④浜松城築城(今年は450周年、引間城入城、見附城築城と中止、家康の浜松城、堀尾吉晴の浜松城、浜松城の大きさ、天守門)、⑤大敗した三方ヶ原合戦(合戦日時、合戦理由、合戦の規模、合戦の場所、合戦に関わった史跡)、⑥浜松時代の主な戦い(掛川城攻略戦、姉川の戦い、設楽・長篠の戦い、高天神の戦い、甲州征伐、小牧・長久手の戦い)、⑦家康にちなむ史跡(五社神社、心造寺、西来院、清龍寺、中村家住宅)、⑧浜松時代の女性(正室築山御前と継室朝日姫、側室とその子供)、と多岐に渡って話が展開され、家康公のあれこれについて、理解を深められたことと思います。

アマチュア無線とは、資格を取得した個人が、無線機を使って自宅で交信したり、車で移動しながら交信する趣味の領域で、別名「ハム」とも言われ、昔からキング・オブ・ホビー＝趣味の王様として親しまれています。

広報部 小池輝夫(東ブロック)



会員の交流広場

～山寺コンサート～

10月20日(日)新聞の催しもの欄に小さく「山寺コンサート」の文字が目飛び込んできた。その先を見ると、場所は天竜区西藤平(旧上阿多古村)西来院と書かれていた。しかも、馬頭琴とピアノのコラボでピアノが大平雅子とある。大平さんは、数年前、私が思い立ってベートーベン第九の合唱を練習した時のピアノ伴奏者でした。これは、是が非でもコンサートに行かなければと思い、妻と孫娘に伝えると二つ返事で山寺コンサート行きが決まる。

日曜日、昼飯もそこそこに山寺に向け出発!阿多古川は清流の名にふさわしく、白いしぶきを上げ碧い淵を作りながら流れる。川の流れに沿い、国道152号線は蛇行を繰り返しながら続く。西来院に近づくと村の人たちが辻に立って道案内をしてくれる。そのお寺は山の麓のやや小高いところにあり、何か懐かしい感じがする。本堂に入ると椅子が並べられ、たくさんの座布団が敷かれていた。30分も早く到着したのに、半分以上の席が埋まっている。

程なく司会者が、10回目のコンサートの開会を伝える。いの一が山寺らしく「般若心経」を住職と小学生の子息が木魚をたたきながら読経を唱える。門前の小僧……か。それから、小学生から年を重ねた人たちの山寺混声合唱団の「山寺の和尚さん」が続き、二胡・オカリナの演奏があって前半が終了し、いよいよお目当ての馬頭琴とピアノの競演となる。

雄大なモンゴルの草原、馬の蹄の音・いななきを二本の弦で、伸びやかに、時には激しく音を紡ぐ馬頭琴。息の合ったピアノとの競演で懐かしい日本の曲、モンゴルの曲が披露される。最後は、山寺に集まった人々全員で「ふるさと」の大合唱で幕となる。

あっという間の至福の2時間を過ごす。おまけに紅白饅頭のおみやげまで頂く。

帰り道は、車の運転は妻にまかせ「山寺コンサート」に思いをはせる。初めて見る馬頭琴の重厚な響き、みんなで歌った声が阿多古の山々にこだまし、返ってくる。

中ブロック 清水正之



会員の交流広場

～たかぼんの独り言～

まだ入会する数年前から、浜松城公園を散策しながら団体客に紛れ込んで歩いていると大きな声が聞こえてきました。「この埋門は殿様の脱出口なんです。本当はもっと狭くて天守閣を建てる時に工事の車を通すため広げられました～」。当時の何人かのガイドさんの説明です。確かに名古屋城の埋門はそうですし、多くの城の埋門は1～2mの狭い門ですね。入会してから皆さんに「本当に工事で広げられた記録があるんですか？」と、質問しましたが明確な答えを聞く事は出来ませんでした。

さて、安政地震の時の被害図面に埋門が描かれています。小屋風の門の屋根の上に土塀が乗せられている形です。そこにサイズが書かれていますので、解読してみましょう。桁壺丈、梁七尺、メートル法に換算すると「約3m×約2.1m」です。まあ少なくとも石垣の幅が3mより狭かった事はありませんね。先日、現在の舗装道路を靴の幅で歩いて計ってみました。不審者と間違えられたかな？こちらも約3mでしたので参考になるはずです。

縄張り図を見て外端城門から攻撃されたら、最短距離で天守曲輪に攻めこまれると思った事ありませんか？実は！その時、本来の埋門の機能を発揮します。半地下式の埋門は、文字通り内側から土砂を入れたり、石垣を崩して門をなくしてしまいます。敵はやむを得ず、西端城曲輪→清水曲輪→清水門→鉄門→本丸枡形→天守門と迂回させられ屏風折れの横矢掛りや、清水門のクランク地帯で約40mの多聞櫓からの集中攻撃に晒される事になります…ふふふ。そんな事を、縄張り図を眺めながら想像して育った子供なので、学校の成績も「回り道！」迷走するはずですね。

小学生の頃、天守地下の井戸は抜け道で中央図書館の出丸に続いていると噂を聞いた記憶がありましたので、先日、町の古老になった2歳上の兄に話したら、「そんなの聞いたこと無いわ！」って一蹴。あぁ～あ、浜松城の抜け穴伝説は私の夢の中だったようでした。

西ブロック 飯尾隆

1月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体		
* 阪急交通社	21回	786名
* ちょこっとりっぷ	2回	51名
* クラブツーリズム	3回	47名
* ボッシュ労働組合	2回	40名
4日 土 萩丘ドッジボール		23名
8日 水 北庄内幼稚園		25名
9日 木 青葉の家 けやきクラス		12名
16日 木 南の星幼稚園		29名
17日 金 ASC 愛知シルバーカレッジ 29期		87名
19日 日 中部中学校		18名
21日 火 ハトヤ観光グループ社友会		13名
25日 土 とうてつグリーンツアー		32名

25日 土 (株)富士トラベル東京	14名
名鉄観光サービス(株)	13名
26日 日 ツアーポート(株)	25名
エバーグリーンツアー	16名
* 上記以外に10名以下の6団体	33名

《犀ヶ崖資料館》

12日 日 クラブツーリズム	21名
26日 日 クラブツーリズム	14名

《浜松まつり会館》

14日 火 静岡大学情報学部	65名
* 日曜対応(5、12、19、26日)	244名

はままつ案内人会報 215号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/



はままつ案内人

検索 🔍